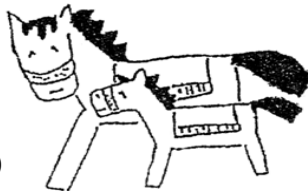


♪  
お馬のかあさん  
やさしいかあさん  
子馬をみながら  
ぽっくりぽっくり  
あるく

# おうまのおやこ

子育ても  
あせらず待ちましょ  
ポックリ、ポックリと

25年 12月 NO. 229



(厚生労働省・高松市委託事業)

〒 760-0044 香川県高松市御坊町2-2  
高松保育園内地域子育て支援センター  
TEL:087-821-9347 FAX:087-851-0857  
<http://www4.ocn.ne.jp/~kouma/>

～どなたでも～

## 12月の主な活動

～お気軽にどうぞ～

12月 6日	金	おはなしの会 10:00～11:30	「おはなしであそぼ」をテーマに 大型絵本や紙芝居があります。
12月 7日	土	お手玉教室 14:00～16:00	来年2月8日(土)が最後になります。 目標は3つの投げ玉ができるようになることです。
12月 14日	土	体験保育 10:00～12:00	同じ年齢のクラスに入って 一緒にあそびましょう。
12月 18日	水	香川みすゞさんの会 14:00～16:00	来年3月1日(土)の「金子みすゞ生誕 110年によせて」準備会議をします。
12月 21日	土	体験保育 10:00～12:00	出産予定の方も育児体験に おいで下さい。
12月 24日	火	健康・育児相談 11:00～12:00	園医師(小児科)にゆっくり 相談できます。(予約要)

・火～金の13時～16時までは、園内開放しています  
ので、親子でご来園下さい。  
(但し、月・日曜・祭日は休み)

育児相談(月～土) 9:00～18:00

しつけや子育てについての悩み、保育園生活  
入園・見学についての相談もどうぞ。

香川県高松市御坊町2-2  
高松保育園 地域子育て支援センター



金子みすゞ第一童謡集より

木の葉のボートに乗ってゆく、  
黒い小蟻は探検家。  
青いボートではるばると、  
海のあなたへ出かけます。  
海のあなたのはなれ島、  
砂糖のお山、密のかわ、  
そうして怖い鳥もいず  
蟻の地獄もないところを。  
青いボートでただひとり、  
これから尋ねに出かけます。



東北大震災から2年過ぎました。まだまだその爪あとは深く、その当時のことをやっと語れるようになった方もいるように感じます。

今月は、全国の小さな子どもを育てる親、子育て支援に関わる方々による「私の3.11」のエッセイをご紹介します。

● ～伝えられなかった感謝の気持ち～ 御福 いつか（埼玉県） ●

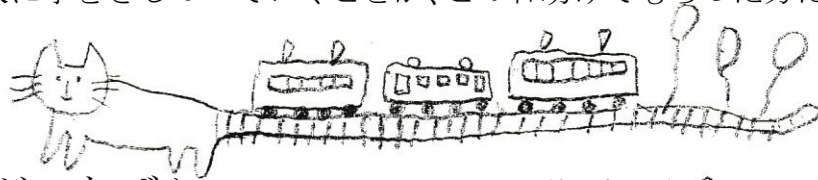
震災当日は、自宅から電車で30分の幼なじみの家に、母と子どもと出かけていた。当時子どもはまだ8か月。突然の大きな揺れに驚きながらも、早く家に帰らなければの一心ですぐに駅に向かった。タクシーをひろい、同じ方向に歩いていたおじさんと相乗りすることに。母は途中で降り無事に家に着いたが、私とおじさんは直後に渋滞に巻き込まれてしまった。日は落ちて外は真っ暗。降りて歩くことになった。約8キロの道のりを、ベビーカーを押しておじさんと歩き続けた。信号や街灯の明かりもない暗闇のなか、道路を走る車のライトを頼りに、2時間半かけてやっと家にたどり着いた。

しかし、大変なのはそこからだった。1人の男性に助けってもらっていなかったら、どうなっていたかわからない。集合住宅の自宅も停電で真っ暗だった。5階まで子どもを抱えてベビーカーを運ぼうとしていたら、たまたま通りかかった住人らしき男性が声をかけてくれ手伝ってくれた。彼は駐車場で1歳の息子と2人で車の中で過ごしているとのことだった。私は夫と連絡がつかなく、どうしたらいいかわからないことを話した。真っ暗でお互いの顔も見えない中、少し話ができてホッとした。とりあえず家に入ったが、水が出ない。真っ暗で怖いのか子どもは泣き続けた。携帯も切れて誰とも連絡がつかなかった。なすすべもなく、途方に暮れていたら、ドアをドンドンと叩く音。さっきの男性だった。「近くの交流センターで避難者を受け入れているとのことなので、行ってみてはどうですか？」私たちのためにわざわざ電話で聞いてくれたのだ。そこはいつも子育て支援が行われていて、ふだん親子で遊びに行っている場所。そこに行くなんて思いもつかなかった……。すぐに荷物をまとめて行ってみると多くの避難者が来ていた。私は子連れだったので、プレイルームを案内され、布団をかりて子どもと横になることができた。23時を過ぎてやっと夫と連絡がとれた。長い1日が終わった。

後日、助けしてくれた男性にお礼を伝えようと伺ったところ、引っ越されたようで感謝の気持ちを伝えられないままになってしまった。この場をお借りして、お礼を言いたい。「元404号室のワカバヤシさん、あの時は本当にどうもありがとうございました」

震災を経験して感じたのは、いざという時助け合えるのは、離れた場所にいる家族ではなく、

その時近くにいる人だということ。近所の男性から助けられただけでなく、自宅まで歩いた2時間半、おじさん、そして、そばを歩いていた周りの方たちから温かい声をかけられ励まされた。避難所でも他の避難者から食べ物を分けていただいた。子どもを守る立場の私が、知らない誰かから助けてもらってばかりだった。逆の立場で私も同じことができたのだろうか。感謝してもしきれない。震災を経験して、人と人とのつながりの大切さに、あらためて気づかされた。ふだんから困っている人に手をさしのべていくことが、この日助けてもらった方たちへの恩返しになると思っている。



～自然がいちばん～

はるま (福島県)

東日本大震災と原発事故から1年半。私の住む福島は、世界の『フクシマ』になってしまいました。放射能の影響で、外遊びが出来なくなった子ども達。閉鎖されたたくさんの公園。悲しい現実ばかりで、私たちママも重苦しい日々を過ごしていました。

外遊びが大好きな我が子。「どうして外で遊んじゃダメなの?」「どうして土に触っちゃダメなの?」たくさんのどうして?に明確な答えも出せず、ただただ、耐える日々でした。

震災以後、遊び場を求めて出会った子育て支援のたんぼぼサロン。広い室内に心のこもった手作りおもちゃ。絵本もたくさん。同じ気持ちを抱えたたくさんのママや子ども達と出会い、自分はひとりぼっちじゃないんだと感じました。たんぼぼに行くと、私の3歳と2歳の息子は元気いっぱいみんなと遊んでいます。家では見ない笑顔を、たくさんたんぼぼで見せてくれます。震災以後、家で遊んでばかりいたので、久しぶりに見た笑顔はとても眩しかったです。

そして、たんぼぼサロンの企画で開催された『しぜんと遊ぼう』。外遊びが出来ない子ども達の為に、神戸や宮崎の支援者の方から送られたたくさんの葉っぱやどんぐり!これを体育館にひろげて思いっきり遊ばせてもらいました。80名程の参加者が集まり、みんな思い思いに自然と触れ合いました。本当に素晴らしかったです!

久しぶりに触る落ち葉。子どもは、「放射能はないの?触っていいの?」と心配そう。そんなことを幼い子に言わせる現実には涙をこらえ、「今日の葉っぱやどんぐりは、遠くからきたんだよ。放射能ついてないよ。だから触っても大丈夫!」と言い、落ち葉プールに飛び込ませました。その嬉しそうな姿!キャー!と喜ぶ声。当たり前が、ほんの少し戻った気がしました。

他にも、どんぐりや松ぼっくりを使った工作、竹を使った竹ぼっくりでのお散歩、みんなで



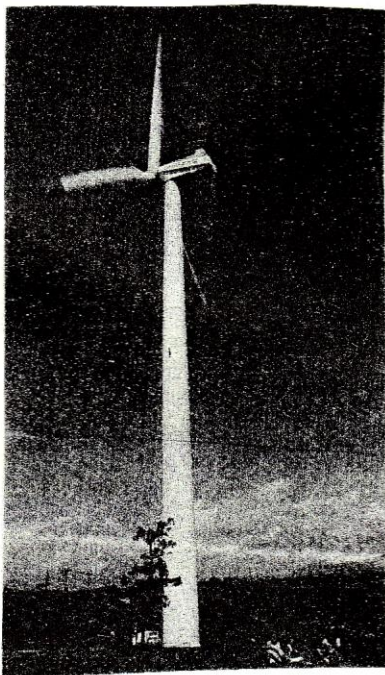
ダッシュ！など、本当に盛りだくさんのイベントで、たくさんの笑い声に包まれました。

最後にみんなで一緒に落ち葉をバツと上に飛ばしました。ハラハラと舞うたくさんの落ち葉を見ていたら、なんだか沈んでいた気持ちまで飛んでいったような気持ちになりました。

福島の今は、まだまだ安心して過ごせる環境ではないと思います。でも、こうして支援してくれる人がいると思うと、本当にありがたかったです。子育て支援の場所は、子ども達はもちろんですが、私達ママもすごく救われます。

④ これからもたんぽぽに支えられ、みんなと一緒に頑張っていきたいです。

しぜんと遊ぼうスタッフの皆さん、支援してくれた方々、本当にありがとうございました！



### 風のもとで

震災の年に新しい命を授かりました。生きてくても生きられなかった小さな命を受け継いだ気がしました。元気に生まれたその子を抱いて、今年の夏、家族で風力発電所のある阿蘇郡産山村へ行ってきました。高さ45mもある巨大風車は、最大で650KWの電力を生み出します。澄み渡った空気を胸でいっぱい吸って、この豊かな自然こそがひとの命を支えるエネルギーであることを再確認してきました。 がみ（大分県）



### こちら石川支部元気ですよ！

南相馬で1人頑張る主人への誕生日プレゼント。



思いついたのは写真。5カ月の娘を長男が抱っこ、次男も三男もちよっぴりすまし顔。震災前は写真がプレゼントなんて思いつかなかった。毎日、生で子どもの成長を見ることができたし、それが当たり前だったから。

仮設住宅に飾られたこの写真。七五三でも入学式でもない、いつもの子ども達、お父さんの誕生日にむけた普段の姿。そこには、今、私たちにとって一番大切にしたい普通のこと写っています。 泉川みちよ（石川県）